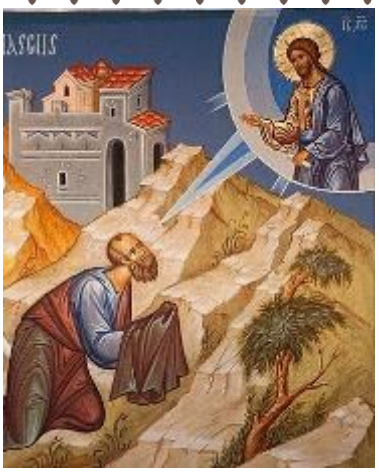


サウルは曩に獅の如くに猛りて、甚しくハリストスの教会を残害したれども、其の窘逐せし神の羔の神聖なる聲に執われて、彼を牧者として群を彼に託す。

（聖使徒ペトル・パウェル祭 早課・第四歌頌）

仙台正教会教会だより

2025年7月号

仙台ハリストス正教会
〒980－0021
仙台市青葉区中央三丁目四－二〇
TEL(〇二二)二二五－二七四四
FAX(〇二二)二二四－三〇八〇
http://www.sendai-orthodox.jp
orthodox@hyper.ocn.ne.jp

聖使徒パウェルは、もともとサウルという名前だった。サウル［サウロ］はまさにユダヤ人らしい名前で、旧約時代の初代の王サウルと同名である。生粋のユダヤ教徒であったサウルは最初「この道に従う者（キリスト教徒のこと）」（使徒9：2）を激しく迫害していた。しかしある時、天から光がサウルを照らした。そして声が聞こえて来た。

「サウル、サウル、何ぞ我を窘逐［迫害］する。爾、莉を踏むは難し。」

ちなみに最後の「莉を踏む云々」は写本の違いで正教会訳聖書にあって口語訳や共同訳には無い聖句（使徒26：14にはある）。「莉」は家畜を刺激する刺のある鞭のことで、「踏むは難し」は無駄な抵抗という意味。すなわちハリストスという真理に歯向かうのは困難であり虚しいことだと諭している。

イコンではハリストスの姿が描かれ、パウェル自身も、復活したハリストスは「わたしにも現れた」（コリント書第一15：8）と言っているが、正確には「サウロの同行者たちは物も言えずに立っていて、声だけは聞えたが、だれも見えなかった」（使徒9：7）。

サウルはハリストスの声を聴いた後、目が見えなくなってしまった。しかし、使徒アナニヤと出会って、洗礼を受ける直前に、彼の目から「うろこのようなもの」が落ちて見えるようになった（「目から鱗」という諺はこれが由来）。それからサウルは生まれ変わったように、使徒として力強く伝道して行くのである。

祈祷文では、神の羔と呼ばれるハリストスの神聖な声がサウルの心をとらえたのだと言い、「彼（パウェル）」を信徒という名の羊の群れ飼う「牧者」にし、羊たちをパウェルに託した、と続く。

私たちの心の目から、幾重にも重なった鱗を落とすために、私たちもハリストスの声を耳ではなく心で聞こう。そのために聖書を読み、参祷しよう。（D）

仙台正教会　信徒総会の開催　6月15日(日)

6月15日(日)、仙台ハリストス正教会の信徒総会が聖体礼儀の後に25名の出席を得て開催された。

開会祈祷、開会宣言の後、長司祭ダヴィド水口優明神父の訓示として、「教会は、ハリストスの体であり、ハリストスは教会の頭である。頭と体が切り離せないように、ハリストスと教会は一体である。そして教会をハリストスの体にするのは神・聖神の導き・力であり、私たちは常に神・聖神の恩寵を呼び求めて祈らなければならない。教会が単なる人間の団体ではない理由はそこにある。現実、困難な世の中に存在する教会は、いろいろな問題を抱えてるだろう。しかし、小さなことに一喜一憂せず、ひたすら教会が神の恩寵のもとにあることを信じる信仰を深めて祈ろう」と教示された。

続いて宗務活動報告、次に会計報告と監査報告が行われ、拍手をもって承認された。

報告の中では主に以下ような事項があげられた。

①昨年6月にセラフィム府主教座下着座祝賀会を開催（教区と協賛）。

②敬老会、新年会、降誕祭祝賀会など、コロナ禍前の行事が戻ってきた。

③昨年10月に仙台正教会一五〇周年記念祭を開催。講話、パネル展、記念品など。

④復活大祭を6年ぶりに深夜に行った。

次に活動計画について、宣教、牧会、活発化など、教会としての永遠の課題に継続して取り組むことの他、以下のようなことが提案され、承認された。

①戦後〔第一代目の聖堂焼失〕から80年を迎える今年、何らかの記念を行いたい（具体的には未定）。

②バザーについては、中止するのではなく、また今までの規模で再開するのではなく、「ミニ・バザー」（仮称）という規模で開催する。その検討のために「バザー委員会」を発足する。

なお、予算案は、案どおりに承認された。

今年は役員改選の年ではなかったが、マルコ熊谷執事とナデジダ清水姉が事情により退任となり、新たにルカ平塚裕兄が執事に就任することとなった（欠員1名）。

東日本「教区会議」の開催　6月22日（札幌）

6月21日(土)から22日(日)にかけて、札幌ハリストス正教会を会場に東日本主教教区の「理事会」および「教区会議」が開催された。

21日の「理事会」後に、主日徹夜祷が行われ、参祷者はセラフィム府主教座下に祝福の油を塗油していただいた。

「教区会議」においてまずは定足数の確認が行われ、30名の出席者によって本会議が始められた。

セラフィム府主教座下はご訓示として隣人に信仰を伝えることの大切さを説かれ、伝道は人と人とのふれあいによって行われるものであることを強調された。

その後、宗務報告が行われ、教団の活動、教団設置委員会である「財務委員会」「宣教企画委員会」「諸規則検討委員会」からの報告、そして教区の活動やその他各教会の主な報告がなされた、つづいて決算報告、監査報告とすすめられ、特に質疑応答もなく承認された。

業務計画としては、これまでと変わらず、年間行事を行うこと、宣教献金の総額も目標金額は変えないことなどが発表された。つづいて予算案が説明され、滞りなく承認された。

今年は役員改選は行われず、会計監事のお二人も留任となった。

「その他」の中で、経済的に逼迫している小さな教会に対する教区分担金の見直しのお願いが出されたが、この問題をどう解消するかが教区の課題となった。

婦人会総会開催

ウェラ山中由美

6月8日(日)の五旬祭聖体礼儀および晩課の後に令和7年度婦人会総会が行われました。水口神父様にもご臨席いただき、昨年の活動報告と収支決算報告で1年間を振り返り、今後1年の活動計画と収支予算案を確認しました。

報告の中では、さまざまな教会行事のお手伝いをしたこと、特に一五〇周年記念としてイコン掛けを新調したこと、また婦人会長が交代したこと、などがあげられました。

今年度の活動計画として教会訪問があげられ9月に山田正教会を訪問する予定となりました（20日～21日予定）。

今年一年も婦人会活動にご参加、ご協力をお願いいたします。

白河正教会だより

一般公開

5月30日(金)から6月1日(日)にかけて、バラの咲き誇る白河正教会が一般公開され、多くの方々が白河生神女聖堂を訪れた。生憎の雨模様だっにもかかわらず間断なく訪問者が足を運び、歴史ある聖堂とイコンを見て感激の声をあげておられた。

巡回

5月31日(土)から6月1日(日)にかけてダヴィド水口神父が白河正教会を巡回した。諸聖神父の主日にあたり、徹夜祷や聖体礼儀では諸聖神父のトロパリや昇天祭のトロパリも加えて歌った。

聖体礼儀につづいてマリナ鈴木姉のご家族のパニヒダが行われた。また祈祷後、イオアン大寺兄の車の成聖も行われた。

聖堂外壁修復の関係で「生神女進堂聖堂の建築」という小冊子を作製した。これは故アンフィム平澤敏雄兄の遺稿をダヴィド水口神父が編集したもの。聖堂建立の経緯が詳細にわかる。

戦後80年記念
昭和20年の執事会の記録より

仙台教会の古いノートに戦中戦後の貴重な執事会の記録が記されている。ここに翻刻・抜粋して紹介したい。(長司祭ダヴィド水口)

昭和二十年六月六日

一、当教会聖器物の避難並びに防空壕に関する件（岩間神父の挨拶）

当教会聖器物の避難並びに防空壕建設に関しては本月三日の総代会にて既に協定したることなれども其の後、菊池総代より聖堂南方井戸側の板倉を利用し聖器物避難を主とする防空壕を造るは却って有利と認めらるるを以て、此の件につき重ねて総代会を開催せられ度い旨の申出でありしゆえ、更に本日開催せる所以なりとの挨拶に引き続き協議に移り、懇談を重ねし結果、大体、左の要領にて防空壕を造ることに協定せり。

（イ）聖堂南方に当たる井戸の南側にある小板倉（二間に一間半の）を其の侭地下に埋収せしめて防空壕となすこと

（ロ）該防空壕の位置は現在の板倉位置より稍や東方に位する場所を選び東西に長く南北に狭く壕を造り、板倉はその向きを換えて壕内に埋収するものにして出入り口は東西両方に設くること。

（ハ）板倉は屋根を其の侭にして埋むべきか又は梁以上の部分を取り去り上方を平らにして埋むるかは鳶人足と相談の上にて決すべきこと。

（ニ）防空壕上部の覆土は少なくとも二尺以上となし且つ排気通風の為、煙突二本、設くること。煙突の材料には板倉附属小屋のトタン屋根を利用すべきこと。

（ホ）該防空壕は菊地総代知り合いの鳶人足をして請け負わしむること

と、なるべく造設費一切七百円の預定なり（見積書を提出せしむること）

…中略…

昭和二十年六月八日

六月六日の総代会に於いて協定せる教会の「小板倉」を埋収して防空壕と為すの件は、翌七日の朝、岩間神父より、直接、鳶人足（福原金三郎）に交渉して、その建造方、承諾を得たりしも、同七日夕刻位、鳶人足、岩間神父許に来たり、

『板倉利用防空壕建造には自分の外、四、五名の人夫必要なるを以て自分は殆んど終日位、人足の刈り集めに奔走せるも、何れも他の工事又は其の他の職に従事し居り、目下の場合、見込み通りの鳶人足を得る能わざるに依りて遺憾此の請負を御断りするの已むなきに至る旨』申し出に接したるが為、岩間神父は其の翌八日、火急の事柄なるを以て総代会の開催を省略し、教会総代の各家庭を巡回してその意見を徴したる結果、本件は左記の通り変更決定することとなれり。

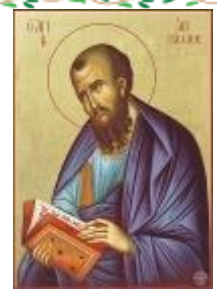
小板倉を埋収して大防空壕を造るの件を取り罷め、更に正教会境内の適当なる樹木を間伐して、之を材料となし、聖堂南方の空地に内容二間に一間、高さ六尺の堅牢なる防空壕を建造すること　此の工事は鳶人足福原金三郎一人にして之に当たり、大体、一週間の予定にて完成の見込み。以上

▲ 仙台市戦災復興記念館の中の防空壕

7月聖名日
モレーベンのご案内
7月20日㈰聖体礼儀後

7月の聖名日モレーベンに該当する方々の一覧です。

▲　聖使徒ペトル


▲　聖使徒パウェル

聖名日	聖　　名	氏　　名（敬称略）
7/10	イオアンナ（携香女）	佐藤圭子
7/12	聖使徒ペトル	太田　秀、木村謙太、小松　繁、佐藤純一、高橋英俊、横山哲也、寺嶋涼華
7/12	聖使徒パウェル	秋保明、木村憲治、
7/18	エリザベタ（ロシア大公妃）	寺嶋リイザ、高橋明子
7/19	ルキヤ（ロマの聖致命女）	岡多喜子、中川八重、佐々木万里子
7/20	フォマ（マレヤの修士克肖者）	沢辺智康
7/24	オリガ（キエフの聖大公女）	小松幸恵、水口敦子
7/26	神使首ガヴリイル	山田　謙
7/27	聖使徒アキラ（70人門徒）	笹川　皓、佐々木明、横山　昭
7/28	ウラジミル（キエフの聖大公亜使徒）	大泉　巖
7/29	ユリヤ（カルファゲンの聖致命女）	佐々木聡子、オウゾン・ジュリヤ
7/30	マリナ（アンティオケアの聖大致命女）	板橋順子、佐藤安子、高橋理恵、永沢いく子、本多弘子、吉田則子

婦人会より

7月6日㈰、リメイク帯の作業を行います。帯から手提げ袋を作製する予定です。今回は、ほどく作業なので、縫い物が苦手な方でも気軽に参加して頂けます。お待ちしております。

聖歌隊より

8月17日㈰、祈祷後に聖歌隊総会を開催します。昨年度の奉仕を振り返り、新年度の奉仕を充実させるための総会です。ご出席くださるようお願いいたします。

消　息

・永眠

六月八日

ルカ板垣　孜　兄（82歳）

永遠の記憶【中新田正教会】

執事会報告

令和7年6月10日(火)
午後2時～4時　3階会議室

一、報告事項
・福島地区信徒集会　5／9
・拡大宣教会議　5／15　於：仙台
教区行事計画の発表。
・婦人会総会　6／8
活動報告、決算報告、活動計画、予算などを話し合った。活動計画として他教会訪問（山田正教会）を練っている。

二、協議事項
(1)信徒総会　6月15日
・公示（会報、掲示板）、往復はがきでの案内を5月中旬に送付した。今日現在の集計として出席予定26人。
・会場設営は当日の朝、方舟会が担当。
・総会役員として、副議長（山田兄、太田姉）、書記（山中姉、永元姉）、議事運営委員（笹川兄、木村兄、大立目兄）の予定とする。
・改選の年ではないが、新執事としてルカ平塚裕兄を選出し承認を得る。マルコ熊谷兄は退任。欠員1のままとなる。
・決算と予算の検討
信徒総会資料が配布され、内容を確認した。
財産目録から「電話加入権」を削除する。
財産目録の正味財産の覧を見やすく改訂した。
予算は提出された案を信徒総会ではかる。
年間予定の中で、バザーをどうするか話し合った。在庫処分の意味でも、ミニ・バザーのようなものを行う予定とし、日程・内容は未定としたい。案としては聖歌発表の場を設けて一般来教者を集めるイベントをメインにしてはどうかという提案も出された。信徒総会の場でバザーについて決議する場を設ける。
・会計監査は6月13日に行う。
(2)全国公会　7月12日(土)、13日(日)
今年の代議員として山田兄と平塚兄が候補。

献金報告

(7.5.26～7.6.24)

○聖堂内献金　六万九千二百八十九円

○感謝献金
但木國子
大川久美子〔前橋〕

○聖名祭感謝献金
永元亜紀子、平塚恵
井戸久未子

○パニヒダ献金
永沢正輝、笹川皓、高橋紀武
佐治美智子、山寺しちよ
本多弘明
高橋清太、山中由美、岡崎雄俊

※敬称略

7月行事・奉事予定

1日(火)　定例執事会　14時～

5日(土)　徹夜祷はお休み　第3調

6日(日)　第4主日　代式祈祷（10時30分）
書札　ロマ6：18-23
福音　マトフェイ8：5-13

◆聖堂清掃奉仕の日

5-6日　水口神父白河巡回

5日(土)　17時半　晩課／18時半執事会

6日(日)　10時　主日聖体礼儀／信徒総会

6日(日)祭日晩課（17時）

7日(月)前駆イオアン誕生祭聖体礼儀（9時）
書札　ロマ13：11-14：4
福音　ルカ1：1-25，57-68，76，80

12日(土)、13日(日)　全国公会（東京）

12日(土)　仙台での祈祷はお休み

13日(日)　仙台での祈祷はお休み

13日(日)　中新田正教会・代式祈祷（10時）

19日(土)　主日徹夜祷　第5調（17時）

20日(日)　第6主日聖体礼儀（10時）
書札　ロマ12：6-14
福音　マトフェイ9：1-8

※聖名日モレーベン

■月例パニヒダ

都合により月例パニヒダは第二日曜ではなく第三日曜に行ないます。

▼方舟会／婦人会

25-26日　水口神父中新田巡回

25日(金)　17時　勉強会／18時　晩祷

26日(土)　10時　聖体礼儀／月例パニヒダ

26日(土)　主日徹夜祷　第6調（17時）

27日(日)　第7主日聖体礼儀（10時）
書札　ロマ15：1-7
福音　マトフェイ9：27-35

◇ミニ講話

◎夏休み子供会（盛岡・教区協賛）

7月の予定

【代式祈祷】【聖堂清掃奉仕】6(日)

【聖歌隊練習】6(日)[発声練習]
20(日)

【聖名祭感謝祈祷】20(日)

【婦人会／方舟会】20(日)

【月例パニヒダ】20(日)〔第三日曜〕

【ミニ講話】27(日)

【伝道会】[18時～]2(水)、9(水)、16(水)、30(水)　23(水)はお休み

定額献金納入袋の送付

定額献金（教会費）は、教会の維持発展のために欠かせない財源です。信徒一人一人の協力で教会は成り立っています。定額献金納入袋を同封させていただきましたのでご利用ください。郵便振替を利用する方法もあります。宜しくお願いします。

［郵便振替口座］

記号　02270-0-5303

加入者名　仙台ハリストス正教会

※　教会の会計年は6月1日から5月31日までです。

※　会報に掲載されました写真でご希望のものがあればプリントいたしますのでご遠慮なく申し出ください。